

# 医療現場への理解深める

## 松本秀峰 生徒10人 相沢病院を見学

松本秀峰中等教育学校の生徒が8日、松本

市本庄2の相沢病院の見学をした。部活動の医学生物部に所属する生徒10人が参加し、手術に使う道具を扱う体験や救命救急センターの見学を通して医療への理解を深めた。

見学班と体験班に分かれて行われた。体験班の生徒たちは、先端

で針を挟んで縫合するための道具「持針器」を持ち、カメラで写した映像を見ながら腹部に見立てた模型の中で、小さな輪を移動させる体験をした。聴診器や人工呼吸に使う道具の扱い方も学んだ。体験した4年生の児野沙都さん(15)は「持針器の扱いは難しかった。医師のすごさをあらためて感じた」と話していた。

松本秀峰中等教育学校と相沢病院が2月に締結した、生徒の病院見学を継続的に受け入れる契約に基づく見学会で、今回で5回目となった。(片岡 望)



持針器の操作体験をする生徒たち